

令和6年度第1回日本スポーツ少年団常任委員会
議事録

日時:令和6年4月19日(金) 14時00分~15時30分

会場:JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 12階 JSPO 大会議室「スタジアム」

※オンライン併用

出席者:益子本部長、遠藤副本部長、見城副本部長、萩原副本部長、生島、白根、安倍、宮下、海野、安川、
松本、明比、神田、伊藤、杉山、長積、望月、蒔田、工藤の各常任委員 計19名

<委任>原、小山の各常任委員 計2名

<欠席>富田常任委員

<オブザーバー>森岡専務理事

<事務局>菊地地域スポーツ推進部長(少年団担当)、渡部課長(事業担当)、永井課長(運営担当)
他少年団課課員9名

構成員の2分の1以上の出席【総数22名のうち出席21名(委任含む)】により会議成立。

(「日本スポーツ少年団設置規程」第18条第3項)

日本スポーツ少年団設置規程第18条第2項により、益子本部長を議長として議事に入った。

■議案

1. 次期日本スポーツ少年団役員(本部長・副本部長)候補者選定委員会の設置について

令和7年6月に予定する日本スポーツ少年団役員の改選に向け、日本スポーツ少年団役員候補者選定委員会を設置することについて諮り、これを承認。

委員の人選については、来る5月31日(金)開催予定の第2回日本スポーツ少年団常任委員会に付議することとした。

<質問・意見等>

- ・資料中で委員数は「若干名」となっているが、具体的には何名程度と想定されるのか。過去の同委員会の事例からお聞きしたい。(宮下委員)
- ・これまでは5名から6名程度に委嘱している。(事務局)
- ・それは委員長を含めた数か。(宮下委員)
- ・そのとおりである。委員長は委員の互選により選任される。(事務局)

2. 第51回日独スポーツ少年団同時交流(派遣)日本団団長団について

第51回日独スポーツ少年団同時交流(派遣)の日本団団長団について、団長を日本スポーツ少年団副本部長/福岡県スポーツ少年団本部長の見城俊昭氏、総務を日本スポーツ少年団活動開発部会員の田中久美氏、庶務を当協会地域スポーツ推進部少年団課の石田翔太郎とすることについて諮り、これを承認。

また、日本団の編成について、派遣候補者数ならびにグループ構成人数の都合から東北Ⅱ・関東Ⅱおよび東海・中国グループをそれぞれ統合することを併せて報告。

■報告事項

1. 令和5年度第6回日本スポーツ少年団常任委員会および第2回委員総会の議事録について
議長から資料のとおり議事録を作成したことを報告。

2. 全国スポーツ少年団競技別交流大会の今後の在り方について

去る令和6年3月6日に開催された令和5年度第6回日本スポーツ協会(以下「JSPO」という。)理事会において、全国スポーツ少年団競技別交流大会は、大会の内容・運営方法を改善し、当面の間、継続することが承認されたことを報告。併せて、今後の取り進めについて以下の点を報告。

<今後の取り進め>

- ・大会内容・運営方法の改善に関する検討のため、プロジェクトを設置することを来る5月31日(金)開催予定の第2回日本スポーツ少年団常任委員会に付議する。
- ・持続可能な大会運営に向けて、受益者負担の考えに基づき、令和7年度大会から期間中の参加者の宿泊・食事・交通等を自己負担とするべく、来る5月31日(金)開催予定の第2回日本スポーツ少年団常任委員会に全国スポーツ少年団競技別交流大会開催基準要項の改定について付議する。

3. [令和5年度]第46回全国スポーツ少年団剣道交流大会および第21回バレーボール交流大会の終了について

本年3月末に開催した第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会(宮城県)および第46回全国スポーツ少年団剣道交流大会(群馬県)について、開催県スポーツ少年団、競技団体および関係団体の協力を得て、両大会ともに体調不良者や大きな怪我もなく、無事に終了したことを報告。

<質問・意見等>

- ・剣道交流大会について、交流プログラムの詳細を教えてください。(生島委員)
- ・開催地の群馬県スポーツ少年団リーダー会による参加者全員を対象としたアクティブチャイルドプログラム(JSPO-ACP)、参加者が持参した交歓用記念品の交換による交流および交流稽古会を実施した。(事務局)
- ・スポーツ少年団として、交流大会の魅力を高め、特色付けるために交流事業が重要である。全国スポーツ少年団競技別交流大会でどのような交流が実施されているのか共有することが重要だと考える。(生島委員)
- ・本年7月の世界剣道選手権大会に出場する日本代表選手10名のうち、6名が全国スポーツ少年団剣道交流大会の出場経験があり、あらためて競技レベルの高い大会であると認識した。気になる点として、小学生の応援場所がある。小学生は自身の試合を終えた後、観客席で中学生の試合を応援していたが、フロアで応援できるとよいのではないか。(蒔田委員)
- ・大会運営で活躍するリーダー会メンバーの姿を拝見し、スポーツ少年団の特長であると実感した。全国スポーツ少年団競技別交流大会として、3大会(軟式野球、バレーボール、剣道)で共通するプログラムがあってもよいのではないか。交流プログラムにおいて、指導者が会場の後ろで固まっている様子が見られた。指導者も団員と一緒に参加できるようプログラム実施方法を工夫できるとよい。(萩原副本部長)
- ・標題について、「終了」となっているために大会自体が終了すると誤解を招くのではないか。「結果」等の文言が適切かと考える。(宮下委員)
- ・指導者がより団員と一緒に参加できるようプログラムを工夫できるとよい。チームごとの集合写真を撮

影する際、チームが集合するまでに時間を要していた様子が見受けられた。時間節約のため、係を決める等、運営面に対応できるとよい。(明比委員)

4. 令和 6 年能登半島地震に関する対応について

令和 6 年度のスポーツ少年団登録において、石川県内の 9 市町(七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、かほく市、宝達志水町、志賀町、穴水町、能登町)を対象に、日本スポーツ少年団が設定する登録料を免除することを報告。

また、日本スポーツ少年団が実施する令和 6 年度スポーツ少年団組織整備強化費助成においては、当該 9 市町分についても、令和 6 年度のスポーツ少年団登録確定時の登録数に基づき助成することを併せて報告。

5. 第 62 回全国スポーツ少年大会および今後の JAPAN GAMES としての大会実施について

大会開催に向け、去る令和 6 年 4 月 4 日に秋田県で開催された第 1 回実行委員会において、開催要項および日程等が承認され、同要項等(日程含む)の細部が変更となる場合は、実行委員会委員長に一任することが承認されたことを報告。

また、全国スポーツ少年大会を JAPAN GAMES を構成する大会のひとつとして実施していくにあたり、本年度中に取り組む予定としている 3 点について、以下のとおり併せて報告。

<本年度の取組予定>

(1) JAPAN GAMES マークの使用

JAPAN GAMES ブランドの周知ならびに国民スポーツ大会および日本スポーツマスターズとの連携・協働を図ることを目的として、令和 7 年度の第 63 回大会(佐賀県)から JAPAN GAMES マークを使用する。

(2) 大会名称の変更

スポーツ少年団活動の促進、地域における活動の活発化およびリーダー育成を目的とする本大会の目的を踏襲しつつ、JSPO の理念・想いを体現していくため、JAPAN GAMES を構成する大会のひとつとして、大会名称を変更する。

[名称案]

「JAPAN GAMES JUNIOR YOUTH」(ジャパン ゲームズ ジュニア ユース)

(3) 大会基本計画の策定(2025 年度佐賀大会)

令和 5 年度第 1 回 JSPO 理事会で承認された「JAPAN GAMES 基本構想」に基づき、大会および開催地ごとにコンセプト等の概要から成る基本計画を策定する。

なお、上記(1)、(2)については、当協会ブランド戦略部をはじめ、国民スポーツ大会および日本スポーツマスターズを所管する部署と詳細を検討のうえ、本年 11 月に開催の第 3 回常任委員会に開催基準要項の改定について付議する予定。また、(3)については、開催地となる佐賀県および本大会を所管する活動開発部会での協議を踏まえ、来年 2 月に開催の常任委員会に付議する予定。

6. 第 46 回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会について

大会開催に向け、去る令和 6 年 4 月 18 日に鳥取県で開催された第 1 回実行委員会において、実施要項および日程等が承認され、同要項等(日程含む)の細部が変更となる場合は、実行委員会委員長に一任することが承認されたことを報告。

また、従来のトーナメント方式を変更し 2 トーナメントで大会を実施すること、熱中症対策として、日

中の暑い時間帯を避けて朝夕に試合を実施(暑さ指数である WBGT31℃未満で開始)することを併せて報告。

<質問・意見等>

- ・ これまでに団員の参加者数を増員していただきたい旨の要望があったが、今回も従前同様に 14 名以内となっていることについて、どのような議論がなされたのか説明いただきたい。(宮下委員)
- ・ 全日本軟式野球連盟が主催する大会では、本大会より多い人数でチーム編成がなされていることを把握している。今後、熱中症への対策も踏まえ、参加数の増員について全日本軟式野球連盟と検討してまいりたい。(事務局)
- ・ A および B としているトーナメントの名称について、変更したほうがよいのではないか。(生島委員)
- ・ 大会 1 日目「少年野球教室」はどのような実施内容を予定しているか。また、試合数について、トーナメントで敗退したチームに対してどのような配慮がなされているか。(望月委員)
- ・ 少年野球教室では、元プロ野球選手を講師に招き、団員に対し野球教室を実施している。トーナメント 1 回戦で敗退したチームについては、敗退チーム同士による交流試合を設定している。(事務局)
- ・ バレーボールおよび剣道交流大会に係る先の報告事項において、交流の重要性が話題に挙げられた。軟式野球交流大会においても、試合がない日中の時間帯で交流の機会を設ける等の工夫ができるとよい。(望月委員)
- ・ 開催地である鳥取県内においても、日中の時間帯を使った交流機会の設定は、話題に挙がっていたところである。暑さ対策により変則的な大会日程となるが、充実した大会となるよう開催地と検討を進めてまいりたい。(松本委員)

7. 2024 年日中青少年スポーツ交流(派遣)について

参加対象者やプログラム内容の改善に向け、中国側に協議・検討の打診を行っていたが、依然として中国側から正式な回答がない状況に鑑み、日本団派遣の諸準備に要する時間等を考慮した結果、2024 年の日本団派遣は見送る旨、去る令和 6 年 3 月下旬に中国側に通知したことを報告。

なお、2025 年の本交流の実施有無については、令和 7 年度予算の編成を開始する本年 6 月上旬を目途として中国側の返答状況等を踏まえ、検討することとした。

8. 令和 5 年度日本スポーツ少年団顕彰の終了について

令和 5 年度日本スポーツ少年団顕彰について、12 都道県計 21 名の退任者に対して感謝状が贈呈されたことを報告。

9. JSPO 登録者等処分規程等に基づく処分(少年団関係)について

JSPO 登録者等処分規程等に基づくスポーツ少年団登録者の処分について、以下のとおり報告。

No.	登録状況	性別	処分対象となる遵守事項の違反にかかる事実	処分の内容
1	バレーボールコーチ1/ スポーツ少年団登録(指導者)	男性	心理的ハラスメント・虐待	厳重注意/ 厳重注意
2	スポーツ少年団登録(スタッフ)	男性	暴力・暴行・その他身体的虐待 暴言その他精神的虐待	活動禁止 24 カ月

<質問・意見等>

- ・ 登録者の処分に係るような事象が起きた際、どのように各スポーツ少年団等に対し周知徹底すればよ

いか悩ましく感じている。日頃から担当間で情報を共有し、事前に防止できるような施策が重要と考える。(海野委員)

- ・ 処分が決まった後、報道機関に対してはどのように周知されているか。(見城副本部長)
- ・ 本件は、報道機関に公開で行われている JSPO 理事会において報告されている。(事務局)
- ・ 処分手続きのフローとして、資料には「1 案件あたり、半年以内での処分決定を目指す」とあるが、今回報告がなされた事案は、どの程度時間を要したのか。(宮下委員)
- ・ 事実調査は相当の時間を要するものであり、1年あるいはそれ以上の時間を要する場合も多いのが現状である。(事務局)
- ・ スポーツ少年団登録者の処分を報告する目的として、将来的な暴力・暴言・ハラスメント等を防止することが挙げられる。防止の観点から、なぜ遵守事項を違反するに至ったのか、また防止するためには何が必要だったのかという点を追記いただきたい。(望月委員)
- ・ 処分事案に関する情報の取り扱いは慎重を期す必要がある。防止という観点を意図した対応として適切な方法に関係部署等とも確認、検討したい。(事務局)

10. 専門部会およびプロジェクト等の報告について

令和 5 年度第 2 回アクションプラン実行ワーキンググループの協議概要について、以下のとおり報告。

<第 2 回(令和 6 年 3 月 25 日)>

- ・ アクションプラン施策進捗管理について

11. ブロック報告について

<質問・意見等>

- ・ 4 月以降、スポーツ少年団の指導者登録に関する問合せが相次いでいる。主に JSPO 公認スポーツ指導者資格を保有していないことにより、スポーツ少年団の指導者登録ができない旨の相談である。令和 7 年度以降の登録について、緩和措置を設けていただきたい。(宮下委員)
- ・ 令和 6 年能登半島地震の義援金として、長野県上田市で約 761,000 円集まった。石川県スポーツ協会と調整し、青少年の皆さまへ義援金を贈りたいという上田市の意向により、石川県輪島市に直接、義援金を贈ることとなった。(宮下委員)
- ・ 長野県内で軟式野球競技の「監督が怒らない大会」を開催した。大変好評であり、他の競技団体でも実施可能なものと期待している。(宮下委員)

12. その他

- ・ 令和 5 年度ミズノスポーツメントール賞
令和 6 年 3 月 6 日に開催された公益財団法人ミズノスポーツ振興財団の選考委員会において、優れた指導者を表彰する 2023 年度ミズノスポーツメントール賞の受賞者が決定し、当協会から推薦した候補者 6 名が受賞した旨を報告。
- ・ 令和 6 年度日本スポーツ少年団会議の開催日程
令和 6 年度の日本スポーツ少年団常任委員会および委員総会の会議日程を報告。
- ・ 令和 6 年度日本スポーツ協会事務局機構および職員の配置
事務局から令和 6 年度の事務局機構および職員の配置について報告。

以上、15 時 30 分閉会。